

ライティング・マラソン速報をお伝えします！

今年で13回目を数えるライティング・マラソン2015が先月幕を閉じました。今回のキャンペーンの活動数やプロジェクトの評価、人権問題に与えたインパクトなどの結果の集計や評価にはもう少し時間がかかります。1月中にはアムネスティの世界各国の支部から情報を集約し、2月末には最終的な数字が確定できそうです。

キャンペーンが各地で大きな反響があり、大成功を収めたことはまちがいありません。アメリカのルイジアナ州の刑務所に収容されているアルバート・ウッドフォックスさんには、想像を超える数の手紙が届いており、ご本人は驚きを隠せずこう語っています。「2千通を超える手紙を受け取って、本当に驚いています。私が心から感謝していることを、手紙を書いてくれたアムネスティの皆さんに伝えてください。皆さんからの手紙が、私の状況に変化をもたらしています」



Phyo Aung at a court hearing
© Mizzima News

非暴力のデモを主導して起訴されていた学生運動のリーダー、ピョーピョーアウンさん(写真左)は、彼女を支援する世界中の何千の人たちから手紙やカードを受け取りました。「世界の皆さんが、私たちがこれまでやって

きたことに共感し、応援してくれていることを改めて知りました。私たちだけで運動しているのではないことに意を強くしました。世界中で応援してくれる皆さんに心より感謝しています。政府がどう対応するかまだわかりませんが、皆さんの後押しをうけて、国の政策を変える力になりたいと思います」

国際事務局には毎日、各国の支部からライティング・マラソンの活動報告が届きます。アメリカやオーストラリアではストリートアートや壁画、西アフリカのトーゴではコンサートで大きな反響を生み、ネパールの若手グループは

11ものイベントで、5千人以上から署名を集めました。また、ライティング・マラソン2013などの支援が奏功して昨年釈放されたベラルーシの元良心の囚人アレク・ビリアーツキさんは、ポーランドでのライティング・マラソンに参加してくれました。

2015年は、様々な支部がそれぞれ独創的なキャンペーンを展開した年でもありました。アルゼンチンでは、署名に参加した人たち一人ひとりに、アムネスティのロゴをネイル



ペイント。ロンドンでは、路上にステンシルで描いた絵が大きな話題になり、ライティング・マラソンの口コミ拡大に結び付きました。またロンドンのギリシャ大使館前では、コスタリカなどの同性愛嫌悪による暴力被害者たちとの絆を示す音だけのキスシーンを集めるイベントがありました。ライティング・マラソン2015の詳細な報告をお待ちください。

グッドニュース！

【ビルマ】政治活動家が釈放される

政治活動家のコーウェルさんが刑期満了で、ヤンゴンのインsein刑務所から釈放されました。

ビルマのミチャウンガン村は、開発の影響で土地を奪われる問題を抱えていました。国の不作為で問題はいつこうに解決しなかったため、住民は市庁舎前で座り込みをしたのです。非暴力で土地問題を訴えるだけのこの座り込みが、刑法505条に触れるとして、逮捕されたのです。この法律がいう「国家や公衆の秩序に反する行為」はしていないにもかかわらずです。そして、昨年4月の裁判で、実刑1年の判決を受けていました。

本件に関するアクションはこれで終了いたします。アピール文を送って下さった方々、ありがとうございました。

米国のラグネスさんが釈放されました！



去る12月2日、アドリアン・バスケス・ラグネスさん(33才)が、カリフォルニア州の刑務所から釈放されました。裁判所は弁護団の主張を認め、無罪を言い渡したからです。ラグネスさんは、拷問を受けて麻薬密売人の幹部に仕立て上げられ、3年あまりも投獄されていました。

ラグネスさんは釈放後、アムネスティに次のように話しています。「皆さん、本当にありがとうございます。皆さんのおかげで釈放されました」。妻のジュディスさんも満面の笑みで、「ここにいるのも、皆さんの長い活動のおかげです。これから、新しい人生を歩んでいきます。久しぶりに帰宅した夫を、4人の子どもたちが出迎えました。その中の末っ子は、収監時はまだお腹の中にいたんです」と。

「拷問なんていらぬい」キャンペーンで、ラグネスさんの釈放活動に参加してくれたすべての皆さんに、大きな感謝をお送りします。皆さんの支援が事態を動かしたのです。ありがとうございました！

〔ビルマ〕人権活動家が釈放される

ザ・ムーブメント・フォア・デモクラシー・カレント・フォース(MDCF)の人権活動家、テインアウンミンさんが複数の抗議活動に参加して、1年の刑を言い渡されていましたが、12月10日に減刑され、釈放されました。

2014年3月、電気料金の値上げ案に反対する無許可の抗議活動をしたとして、10月には、収監中のジャーナリストの死亡を疑問視して捜査を求めるデモをしたとして、それぞれ実刑6カ月を言い渡されていました。

本件に関するアクションはこれで終了いたします。アピール文を送っていただいたすべての方々に感謝します。

〔バハマ〕 不法拘束された移民、強制送還に

ハイチ国籍のジャー・マリー・ジャスティレンさんは、バハマに不法入国した容疑で昨年6月、拘束・起訴されました。12月2日無罪となりましたが、移民収容センターに移送、その後拘束されたままでした。そして、12月7日、ハイチへ強制送還されました。

ジャスティレンさんは昨年6月、バハマのエリユーセラ島での不法移民強制捜査で逮捕されました。当局によると、逮捕の際、ジャスティレンさんが捜査員の武器を奪おうとして背後から撃たれたとのことでした。しかし、捜査妨害の容疑はかけられていません。バハマの人権協会は、この発砲事件に対する第三者の調査を求めましたが実現しなかったため、ジャスティレンさんの弁護士は、当局を告訴しました。

ジャスティレンさんは、移民法に違反したとして、違法入国の容疑をかけられました。保釈の申請は拒否された上に収監されたのは刑務所でした。そこで5カ月以上も収容された後、11月ようやく裁判が始まり、12月1日、無罪判決を言い渡され、釈放されました。

本件に関するアクションはこれで終了します。アムネスティは、引き続き動向を注視していきます。アピール文を送っていただいたすべての方々にお礼申し上げます。

UA ニュース

発行:アムネスティ・インターナショナル日本
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-12-14 晴花ビル7F
TEL:03-3518-6777 FAX:03-3518-6778
E-mail:uaoffice@amnesty.or.jp

UA年会費 3000円
郵便振替 00120-9-133251
加入者名 公益社団法人アムネスティ・インターナショナル日本